

〔研究論文〕

若年層教師が身につけるべき社会的能力に関する  
小学校教師と保護者の意識の比較検討

Comparison of Awareness of Elementary School Teachers and  
Parents about Young Teachers' Social Competence

山下 健  
Takeshi YAMASHITA

小泉 令三  
Reizo KOIZUMI

〔研究論文〕

## 若年層教師が身につけるべき社会的能力に関する 小学校教師と保護者の意識の比較検討

Comparison of Awareness of Elementary School Teachers and  
Parents about Young Teachers' Social Competence

山下 健  
Takeshi YAMASHITA

小泉 令三  
Reizo KOIZUMI

福岡教育大学大学院教育学研究科  
教職実践専攻生徒指導・教育相談  
リーダーコース

福岡教育大学教職実践講座

(2013年1月31日受理)

本研究では、若年層教師がどのような社会的能力を身につけるべきかについて、222名の小学校教師と315名の保護者に対して無記名のアンケート調査を実施した。その結果、保護者の回答はアサーション、自己のコントロール、他者への気づきの3つが有意に高く、小学校教師の回答は共感・開放性、自己への気づき、ストレス対応の3つが有意に高かった。若年層教師に対して、保護者は教師としての強い意思や子どもに対する冷静な指導を求めながら、誰にでも平等に接してほしいと願い、教師は我が身を振り返ることと体調管理について大切だと考えていることが明らかになった。

キーワード：若年層教師、社会的能力、小学校教師、保護者

### 1 問題と目的

学齢期の子どもの一義的な教育者は、保護者と教師であるが、保護者は教師にどのような資質を期待しているのであろうか。また教師は自らの資質をどのように見ているのであろうか。この点に関して、例えば「保護者・教師の教育に関する意識調査 - 集計結果 -」（佐賀県教育庁企画・経営グループ、2007）によると、教師の力量について教師自身が努力すべき点として、保護者は、授業力、子ども理解力、生徒指導力をこの順に挙げているが、同様の問いに対して、教師側は、授業力、教科の知識、子ども理解力の順に挙げている。どちらも授業力が第1位で同じであるが、他の力は必ずしも一致しているとは言えない。

また同じ調査で、教師の資質に関して、「教師は今以上に社会の動きを学んだり、様々な人々の思

いや考えを理解できるように努めることが必要か」との問いに対して、「そう思う」と回答した教師が48%であったのに対し、保護者は37%と、11%ポイントの開きがあった。ただし、「教師は今以上にきまりやルールを守るなどの規範意識を持つことが必要か」との問いに対しては、教師も保護者も回答にほとんど差は見られなかった。このほかにも、教師の力量や資質に関して、身につけるべきである点や努力すべきと思われる点について、教師と保護者の意識調査による比較がなされ、その相違点が明らかにされている（例：横浜市教育委員会、2012）。

しかし、これらの調査で回答者が念頭に置く対象は教師全般である。現在、教員の年齢構成において50歳代の割合が高く（文部科学省、2010）、こうした教員の退職にともない、若年層教師が大幅に増えることが予想されている。教師全般ではな

Table 1 教師の社会的能力尺度における基礎的・応用的社会的能力と内容例

基礎的 社会的能力	①アサーション	人と違う意見が言える。まわりに左右されない。自分の意志で行動。一生懸命。気持ちの表現。対面して大人と話せる。平等。
	②自己のコントロール	誰にでも冷静な対応。感情的な指導をしない。他人に八つ当たりをしない。落ち着いた指導。相手の気持ちを考えながら話す。心身のバランス。体力。言葉遣い。
	③共感・開放性	人が嬉しそうにしていると自分も嬉しい。進んであいさつ。児童を褒める。同僚に進んで話しかける。向上心。視野を広く。自分の能力をもっと伸ばしたい。進んで研修。人間関係づくり。保護者対応。笑顔。コミュニケーション。
	④他者への気づき	児童のいいところを見つける。児童の個性や特徴を理解できる。悩みの傾聴。児童の気持ち分かる。子どもの目線をもつ。相手の話を聞く。
	⑤自己への気づき	自分自身のできることとできないことが分かる。自身の得意・不得意が分かる。謙虚さ。素直さ。社会体験で世間との違いを知る。服装や身なり。
応用的 社会的能力	⑥積極的・貢献的な奉仕活動	勤務時間外の児童の引率を引き受ける。能力を職場以外でも生かす。進んで仕事を見つめる。ボランティア体験。
	⑦ストレス対応	異動で勤務校が変わってもうまくやれる。ストレスを上手に発散できる。趣味。息抜き。
	⑧自己確立	困難を相談できる。法令遵守。信頼性。一般常識。理想。マナー。礼儀。
※指導力		学習指導力。生徒指導力。学級経営力。パソコン。外国語。教材研究。

く、若年層教師への保護者の期待に焦点を当てた研究は、今後の教員養成や教師研修に資する点が多いと考えられる。

そこで本研究では特に、教師の社会的能力に注目した。それは、教師の社会的能力と指導力の間には関係があり、社会的能力が高いと認知している教師は、指導力の自己評価も高いことが明らかになっているからである(山下・小泉, 2012)。

以上、本研究では、小学校教師と小学校に児童が在籍する保護者を対象とした意識調査において、「若年層教師が今後も教師としての仕事を続けていくためにはどのような社会的能力が必要であると考えられているのか」を明らかにすることを目的とした。方法としては、若年層教師に関する保護者対象の調査はほとんど実施されていないことから、予め構造化された質問紙ではなくまず自由記述で回答を求めることとした。なお、本研究では若年層教師を「教職経験6年目以内程度の教師」と定義する。

## 2 方法

(1) 対象者 A 県内小学校教師222名を対象とし、200名から回答を得た。そのうち、有効回答数は161名であった。同様に、A 県内小学校に児童が在籍する保護者315名を対象とし、287名から回答を得た。そのうち、有効回答数は247名であった。

(2) 調査時期 小学校教師に対しては、2011年8月～10月にかけて実施した。保護者に対しては、2012年9月に実施した。

(3) 調査手続き 小学校教師に対しては、A 県内の小学校9校の校長に第1著者が直接依頼した。質問紙は無記名とし、回収時には専用の封筒に各自が質問紙を入れて封をする形をとり、調査対象者が特定されないように配慮した。保護者に

対しては、A 県内の小学校1校の校長に第1著者が直接依頼した。教師対象時と同様の手続きをとり、調査対象者が特定されないように配慮した。

(4) 調査内容 「若年層教師が今後も教師としての仕事を続けていくためにはどのような能力を身につけるべきだと思うか」という設問について、自由記述により回答を求めた。

## 3 結果

まず、一人の回答には複数の内容が含まれていることがあるので、各回答を内容ごとに分割した。その結果、小学校教師の回答は295、保護者の回答は407に分けることができた。これらを山下・小泉(2012)の教師の社会的能力尺度の8つの下位尺度(アサーション、自己のコントロール、共感・開放性、他者への気づき、自己への気づき、積極的・貢献的な奉仕活動、ストレス対応、自己確立)および指導力の合計9つの項目(Table 1)に分類した。分類に際しては、本研究と関わりのない中学校教師1名に、一部の回答(無作為抽出200)について独立して分類作業を行うよう依頼した。その結果、不一致の回答が22(11.0%)あったので、第1著者と共同で吟味を重ね、最終的にすべての分類に関して一致を見た。回答内容の一部をTable 2に示す。

次に、教師と保護者の間に回答の分布に有意な差があるのかを調べるために、 $\chi^2$ 検定を行った(Table 3, 4)。その結果、保護者の回答はアサーション、自己のコントロール、他者への気づきの3つで有意に多く(Figure 1, 2, 3)、小学校教師の回答は共感・開放性、自己への気づき、ストレス対応の3つが有意に多かった(Figure 4, 5, 6)。残りの3項目では有意な差は見られなかった。

Table 2 回答の例

	小学校教師	保護者
①アサーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰にでも同じように対応できること。</li> <li>子どもや保護者の意見に左右されないこと。</li> <li>人間関係を良好に保つこと。</li> <li>仕事に対する情熱。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一生懸命であること。</li> <li>自分の意思を貫くこと。</li> <li>保護者の顔を窺わないこと。</li> <li>すべての子どもを平等に扱うこと。</li> <li>言うべきことは誰にでも言えること。</li> </ul>
②自己のコントロール	<ul style="list-style-type: none"> <li>温かさや厳しさの使い分けができること。</li> <li>心身のバランスを持っておくこと。</li> <li>冷静さを失わないこと。</li> <li>臨機応変さ。</li> <li>変化への迅速な対応。</li> <li>押しつぶされえない心構え。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもや周りに対して感情的にならないこと。</li> <li>乱暴な言葉遣いをしないこと。</li> <li>一時的な感情で怒鳴らないこと。</li> <li>子どもの前で平常心でいること。</li> <li>論ずように叱ること。</li> <li>気分で態度を変えないこと。</li> </ul>
③共感・開放性	<ul style="list-style-type: none"> <li>人の話を聞く姿勢。</li> <li>子どもと積極に関わること。</li> <li>話ができる仲間づくり。</li> <li>コミュニケーション能力。</li> <li>進んで挨拶ができること。</li> <li>主体的な学びの姿勢。</li> <li>ユーモア。</li> <li>積極性。</li> <li>子どもや保護者と対話ができること。</li> <li>チャレンジ精神。</li> <li>向学心。</li> <li>自己研鑽すること。</li> <li>協同性。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さなことでも保護者への連絡をきちんとすること。</li> <li>他人の話をゆっくり聞けること。</li> <li>「はい」と返事ができること。</li> <li>子どもの悩みを最後まで聞くこと。</li> <li>休み時間に子どもと一緒に遊ぶこと。</li> <li>保護者や子どもとのコミュニケーション能力。</li> <li>元氣な挨拶をすること。</li> <li>自分を出せること。</li> <li>子どもの悩みと一緒に考えて考えること。</li> <li>元氣な姿を見せること。</li> <li>常に明るさを忘れないこと。</li> <li>ほめる力</li> </ul>
④他者への気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>先輩に学ぶこと。</li> <li>さまざまな角度から子どもを見る力。</li> <li>子どもと真摯に向き合うこと。</li> <li>他人への思いやり。</li> <li>相手の気持ちを察すること。</li> <li>子どものよさを見つけること。</li> <li>支援の必要な子を見抜く力。</li> <li>子どもの変化に気づくこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちを広い視野で見つめること。</li> <li>子どもの目線を忘れないこと。</li> <li>小さな変化に気づくこと。</li> <li>親身になって子どもに寄り添えること。</li> <li>いじめを見逃さないこと。</li> <li>子どものサインを見逃さないまっすぐな目。</li> <li>子どものいいところに気づいて伸ばすこと。</li> <li>子どもたちに目を向けて話を聞くこと。</li> </ul>
⑤自己への気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身を知ること。</li> <li>分からないことを認めること。</li> <li>反省をし、それを次につなげること。</li> <li>素直であること。</li> <li>自分を冷静に分析できる。</li> <li>自分に対する客観視ができること。</li> <li>挫折を味わうこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新人であるという自覚を持つこと。</li> <li>教育者としての服装のセンス。</li> <li>失敗を生かして学び、子どもと接すること。</li> <li>常に謙虚さを持っておくこと。</li> <li>どのようなことを身につけるか自分で考える力。</li> <li>分からないことを自分から尋ねること。</li> <li>教師になった動機を忘れない。</li> </ul>
⑥積極的・貢献的な奉仕活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やります」と進んで取り組んでいくこと。</li> <li>進んで先輩の助けをすること。</li> <li>教師以外の体験をすること。</li> <li>職場内での率先した奉仕活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の行事などに積極的に顔を出すこと。</li> <li>地域の行事に参加すること。</li> </ul>
⑦ストレス対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストレスとうまく付きあう方法。</li> <li>思いつめないこと。</li> <li>趣味や息抜きを持つこと。</li> <li>深く悩まないこと。</li> <li>ゆとりある考え方。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストレス解消法を知ること。</li> </ul>
⑧自己確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>礼儀や常識を身につけておくこと。</li> <li>信頼される人柄であること。</li> <li>時間や期限を守ること。</li> <li>礼儀作法。</li> <li>保護者が腹を割って話せる人格。</li> <li>自分らしさ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報的重要性を認識すること。</li> <li>決められたルールを守ること。</li> <li>常識ある行動。</li> <li>子どもの手本になる生活。</li> <li>倫理的視点を持つこと。</li> <li>一社会人としてのマナーを身につけること。</li> </ul>
※指導力	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業技術。</li> <li>学級経営スキル。</li> <li>教材研究をすること。</li> <li>パソコンに堪能なこと。</li> <li>学習指導ができること。</li> <li>研修で学んだことを実践すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもに勉強を理解させること。</li> <li>悪いことをした子を叱ることができること。</li> <li>子ども間の問題の解決方法。</li> <li>まとまりのあるクラス作り。</li> <li>高い教科指導力。</li> <li>子どもに飽きさせない授業力。</li> </ul>

Table 3 若年層教師が身につけるべき社会的能力 ( $\chi^2$ 検定の結果、上段：(%), 下段：期待値)

	アサーション	自己のコントロール	共感・開放性	他者への気づき	自己への気づき	積極的・貢献的な奉仕活動	ストレス対応	自己確立	指導力
小学校教師 $n=295$ (複数回答)	7(2.4)	16(5.4)	95(32.2)	37(12.5)	50(16.9)	5(1.7)	17(5.8)	43(14.6)	25(8.6)
保護者 $n=407$ (複数回答)	23.1	25.2	81.5	54.2	28.2	3.8	8.0	39.1	31.9
	48(11.8)	44(10.8)	99(24.3)	92(22.6)	17(4.2)	4(1.0)	2(0.5)	50(12.3)	51(12.5)
	31.9	34.8	112.5	74.8	38.8	5.2	11.0	53.9	44.1

$\chi^2(8)=89.192, p<.01$   
Cramer'sV= 0.356

Table 4 若年層教師が身につけるべき社会的能力（残差分析の結果、調整された残差）

	アサーション	自己コントロール	共感・開放性	他者への気づき	自己への気づき	目標的・貢献的な社会活動	ストレス対応	自己確立	指導力
小学校教師	-4.59 **	-2.52 *	2.30 *	-3.40 **	5.69 **	0.83	4.43 **	0.88	-1.71 *
保護者	4.59 **	2.52 *	-2.30 *	3.40 **	-5.69 **	-0.83	-4.43 **	-0.88	1.71 *

+p<.10 \*p<.05 \*\*p<.01

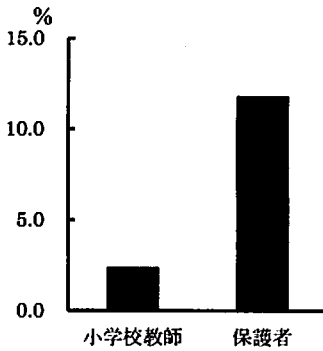


Figure 1 アサーション

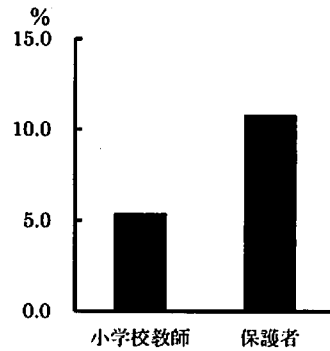


Figure 2 自己のコントロール

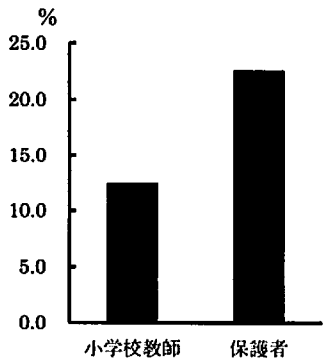


Figure 3 他者への気づき

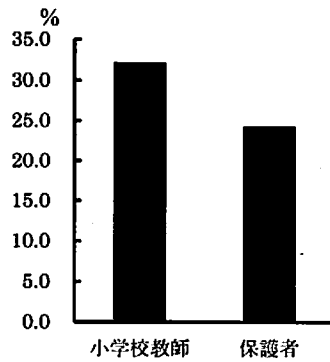


Figure 4 共感・開放性

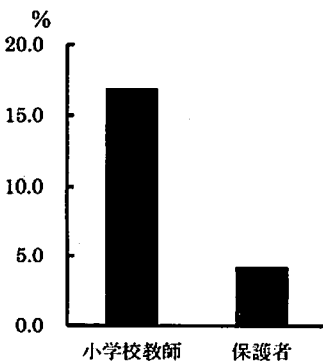


Figure 5 自己への気づき

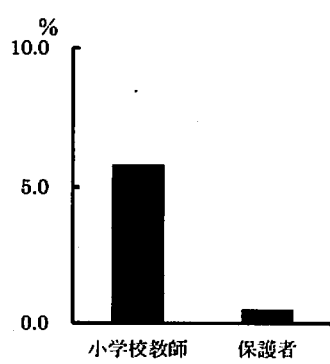


Figure 6 ストレス対応

#### 4 考察

保護者は他者への気づきに関する回答が有意に多かったことから、若年層教師に対して、自分の子どもを含めて、児童の様子を常に心がけてほしい、ちょっとした変化も見逃さないでほしいという思いを持っていると言えるのではないだろうか。また、アサーションに関する回答が有意に多かったことから、仕事に対して一生懸命であると同時に、教師としての意思をしっかりと持ってほしいと願っていることが窺える。また、誰にでも平等に接してほしいという思いを持っているものと考えられる。自己のコントロールが多かった理由としては、感情的にならずに冷静に指導してほしいという思いの表れだと考えることができる。

小学校教師では、共感・開放性に関する回答が有意に多かった。これは、相手の話を最後まできちんと聞くことや、受け身ではなく積極的に人と関わるコミュニケーション能力の大切さを示唆しているのではないかと思われる。自己への気づきが多かった理由としては、自分を振り返ることによって常に学ぶ姿勢を若年層教師にも求めているものかと思われる。また、ストレス対応が多かった理由としては、体調管理の大切さを若年層教師にも意識させたいという思いの表れではないだろうか。

以上のことから、本研究では、若年層教師が身につけるべきと思われる社会的能力に注目して保護者と小学校教師の意識を分析したところ、双方の意識に差があることが明らかになったと言える。

横浜市教育委員会(2012)によると、保護者は教員に対して「教育への責任感や使命感」を最も多く望んでおり、次いで「非行やいじめなど問題行動への適切な対応」「社会人としての一般常識」を望んでいる。また、教員は、自らが望まれていると思うことに対して「授業力や教科などの専門知識」を最も多く挙げ、次いで「非行やいじめなど問題行動への適切な対応」「教育への責任感や使命感」「子どもや保護者との信頼関係」の順に挙げていた。ここでも、小学校教師と保護者との間に意識の差があることが明らかにされている。保護者が最も多く望んでいる「責任感や使命感」については、「一生懸命さ、意思の貫徹」とも読み替えることができ、アサーションを身につけてほしいという本研究での保護者の願いと一致する。

山下・小泉(2012)は、社会的能力が高いと自己評価する教師は指導力も高いと自己評価することを明らかにしている。しかし、どのようなプロ

セスを経て自己評価に至るのかという点は検討していない。若年層教師に対する公的な教師教育の一例として初任者研修が挙げられる。その中には、保護者との連携には触れられているものの、保護者が若年層教師に対してどのようなことを願っているのかについて扱った項目は見られない。若年層教師が自らの指導力を向上させようとするとき、本研究で明らかになった保護者と小学校教師の意識の違いを理解することができれば、双方の願いをくみ取った社会的能力の向上を期待することができると言えるのではないだろうか。

なお本研究では、小学校教師は複数の小学校に在籍しているが、保護者は1校のみであり、特定の学校の事情が回答に反映している可能性がある。結果の一般化には注意を要すると考えられる。

謝辞：本研究における意識調査にご協力いただいた各学校の校長先生はじめ諸先生方、また保護者の方々に厚く御礼申し上げます。

#### 引用文献

- 文部科学省(2010). 学校教員統計調査.
- 佐賀県教育庁企画・経営グループ(2007). 保護者・教師の教育に関する意識調査-集計結果-.
- 山下健・小泉令三(2012). 教師が身につけるべき教職能力における社会的能力の自己評価 教育実践研究(福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター) 20, 207-213.
- 横浜市教育委員会(2012). 平成23年度横浜市教育意識調査.